

2020年11月15日 司祭 越山 哲也

八戸聖ルカ教会

聖霊降臨後第24主日（特定28） 説教

「タラントンは神様からわたしたちへの信頼の証」

〔旧約聖書続編〕ゼファニヤ書 1:7、12~18

〔使徒書〕テサロニケの信徒への手紙Ⅰ 5:1~10

〔福音書〕マタイによる福音書 25:14~15、19~29

主の平和が皆さんと共にありますように。

聖霊降臨後の季節を過ぎて参りましたが、来主日が降臨節前主日を迎え今年の教会暦も終わりとなります。私たちの信仰の旅路のゴールは「天の国（神の国）」の完成です。イエス様がもう一度この世界に来られることを待ち望むことです。

天の国とは、イエス様にすべての人が全き信頼を寄せて共に生きていく状態です。本日は「信頼」という言葉をキーワードに福音書を味わっていきたいと思います。

ある人が旅行に出かける時に、僕たちを呼んで自分の財産を預けられました。ひとりには5タラント、もう一人には2タラント、もう一人には1タラントです。1タラントとは約6000日分の賃金に相当しますから5タラント預かった人にとってみれば生涯賃金よりもはるかに大きい金額を預かったこととなります。

タラントとは「才能」、「賜物」という意味です。ですからこのたとえ話では3人にそれぞれ何かしらのタラントを神様から預かっているということです。

注目したいのは、主人はタラントを預けましたが、それをどのように使いなさいとは一切指示していないということです。それは神様は私たち一人一人を信頼してくださっていることだと思うのです。

5タラント、2タラント預かった人はその事に気が付いていて、主人への信頼と自分も信頼してもらっている双方の信頼関係の中において預かったものを倍にしました。

それに対して1タラントあずかったものは、主人が恐ろしい存在だったようです。ですから信頼にはほど遠い心だったのではないのでしょうか。主人が怖いのでタラントを無くさないように地中に埋めておいたのです。これが分かれ目となっています。主人を信頼して預かったものを用いてさらに豊かにして

いくことを主人は褒められました。1タラント預かった者の心の中には主人への恐怖と同時にねたみもあったかもしれません。どうして自分だけ他の人と比べて才能、賜物がないのだと。

そのことによって萎縮してしまい、最初からもうあきらめてしまっていたのかもしれません。

賜物、才能を生かすためには自身の思いと決断が一番大切です。そして、私は同時に「わたし」に与えられた賜物を「あなた」が見出していくことも大切なことなのではと思うのです。

コロナ禍にあって私たちはどうでしょうか。こんな時だからこそ改めて私たち一人一人に与えられたタラントンを見つめてみませんか。そしてそれは神の国の完成まで決して土の中に隠すことなく、用い続けるのです。そうすればそれらは本当に豊かに増えていくのです。神様は私たちを信頼してタラントンを預けてくださっているのです。

神の国の完成の時には一人一人が主人の前でタラントンの清算をしなければなりません。教会は私たち一人一人のタラントンを用いることによって生き生きとなっていくのです。

どうぞ皆さんの賜物をいかに発揮して頂いて生きる力、命の灯を輝かせていきましょう。